

佐藤 米次郎（さとう・よねじろう）

1、プロフィール

版画家、童画家。戦後の青森県の児童文化発展のために尽力する。豆本、蔵書票作り、ラジオドラマなどの執筆、児童雑誌の発行、童話会を開くなど児童文化活動に貢献。

<生没>

1915(大正4)年1月1日～2001(平成13)年6月22日

<代表作>

ラジオドラマ「青森県の昔話 春」ほか夏、秋、冬の四集。

豆本「津軽三厩源義経伝」「みちのく子供の四季」

<青森との関わり>

青森市に生まれ、昭和9年東奥日報事業部に勤務、県童話会の企画。昭和21年、雑誌「陸奥の子」発行。

2、作家解説

大正4年1月1日、青森市橋本141番地に生まれた。

幼稚園から小学校にかけては虚弱体質で休校することが多かったが、中学3年の時、木版画を始め、かたわら青森市在住の日本童話協会々員小笠原螢村(精二)の知遇を得て日本童話協会の機関誌「童話研究」を手にしたのが木版画に魅かれた発端であった。

昭和7年青森中学校を卒業、その春大日本雄弁講談社主催「久留島武彦口演童話講演会」が青森市橋本小学校と野辺地町立野辺地小学校で開催され、それを手伝ったのを機に久留島武彦を知る。

更に久留島を通して日本童話協会理事長蘆谷蘆村(あしやろそん)を紹介され、交流が始まる。

その年の夏県庁に勤務するが健康を害して退職、東奥日報事業部に勤務する(昭9)。

東奥日報社が青森市に盧村を招き青森師範学校で「童話学」を講演、同校弁論部内の童話研究生がこれに刺激されて以前から実施していた「青師童話行脚」を「県下学童お話大会」と改称して行なうことになる。

その後支那事変が勃発、盛会となったお話大会は13年で終止符を打つ。

のち盧村来青記念として誕生した「青森県童話会」から機関誌「かっこう」が発行されたが昭和15年正月、兄米太郎のいる朝鮮仁川(韓国)に移住。3号をもって終刊。

仁川在住中も朝鮮美術展などに作品を発表、「童謡版画集こけしの夢」「朝鮮童謡版画集おんどの夢」を発行。

昭和19年召集、入営、7月除隊。

10月結婚、昭和21年3月帰国。

兄米太郎と共に青森市橋本141番地に小さな出版社「青い森」を創立、月刊児童雑誌「陸奥の子」(のち「むつの子」)を発行する。

昭和23年「津軽むがしこ集」発行、小、中学校への版画講習会、童話会、人形劇上演、童画展など幅広い児童文化の普及に力を尽くす。

昭和48年日本童話協会の50年記念で功労感謝状、県文化賞、県褒賞、文部大臣賞、など多くの賞を受ける。

昭和50年児童文化研究会の名誉会員に推される。

平成7年5月叙勲。

菊紋木杯一組と賜杯受賞。

平成13年6月22日病没。

3、資料紹介

○『ラジオドラマ 青森県の昔話 春』

図書

1977(昭和52)年3月3日

80mm×80mm

NHK 青森のためにラジオドラマとして執筆。豆本に作成。第1集春は、1、鬼の玉手箱。2、お猿のむこさん。3、とんち小坊主の3話からなる。見返しの版画は子供のこま廻しである。

○「陸奥の子」創刊号

雑誌

1946(昭和21)年11月1日

編集発行とも佐藤米次郎。表紙の題字は久留島武彦、表紙画は武井武雄、巻頭には当時の青森県知事大野連治の推薦のことばが寄せられている。